

総裁記者会見要旨（10月20日）

IMFC 終了後の福井総裁、篠原財務官記者会見における総裁発言要旨

2007 年 10 月 21 日

日本銀行

於・ワシントン

2007 年 10 月 20 日（土）

午後4時30分から約20分間（現地時間）

【冒頭発言】

今回のワシントンでは G7、今日の IMFC 等の会議がございました。FRB のバーナンキ議長や ECB のトリシェ総裁にお目にかかったり、ご当人の任期終了が近いということもありデ・ラト IMF 専務理事にも個別に話をさせていただきました。一連の会議・会談を通じ、米国のサブプライムローン問題に端を発する国際金融市場の変動が1つの大きなテーマであったと思いますが、これも含めて全般的な印象・感想を述べたいと思います。

米国の住宅市場の調整や国際金融市場の変動が、世界経済の成長にとって不透明要因となっているということですが、エマージング諸国の高成長にも支えられ、世界経済のファンダメンタルズは引き続き強いということが確認されたと思います。振り返ってみますと、ここ数年に亘って、世界経済や金融環境の良好な状況が続き、これが“Great Moderation”という表現で呼ばれているのはご承知のとおりだと思います。こういう状況が続いてきた中で、BRICs をはじめとするエマージング諸国の台頭が進み、これらの国々に産油国も加わり、豊富な資金をもとに国際的な資金の流れが飛躍的に拡大しました。このことは金融面でのイノベーションを促進させる1つの原動力となりましたが、一部にリスクの評価に緩みが生じ、その後の市場の自律的な調整に繋がったというのが今般の国際金融市場の変動の基本的な性格であると思われます。様々な議論を通じ、大方こういうことが確認されたと思います。更に、今後 FSF

(金融安定化フォーラム)などの場で突き詰めた議論を続けていくということになった次第です。金融と経済のより良きハーモニーを見出して、一層揺ぎなき持続的成長軌道を世界経済全体として、あるいはその中で日本経済として追求していくという大きな方向性を確認しました。

世界経済は根底にグローバル・インバランスという大きな問題を抱えています。従って、経済と金融がより良きハーモニーを実現しながら経済をうまく運営していくことは、長い目でみて、その中でグローバル・インバランス改善の努力を円滑に行っていくという道にも通ずると思います。もし逆にそこに綻びをみせると、保護主義台頭のリスクが存在するわけですので、その脅威にいつも直面しなければならなくなってしまいます。加えて、最近特に目に見えておりますが、エネルギー価格の高騰、一次産品、なかんずく希少資源の価格の高騰という問題もあります。これらが世界経済全体に対して様々なインパクトを及ぼしていく可能性があります。こうした様々な根底的課題、あるいは本質的課題をいつも念頭において、世界の経済・金融を常にこの大きな構図で捉えて行くことが重要だと思います。今回も様々な議論を通じ、大方、そういう構図を共有していこうということになってきていると思います。こうした課題を乗り越え、世界経済の持続的な拡大を確保していく必要があります。そのために、各国がそれぞれの立場で適切な施策を実施していくことを改めて確認しました。

【問】 金融市場における規律の緩みの背景として、世界的な過剰流動性が指摘されています。今回の危機で結局各国が対応できたのが金融の緩和でした。これが、当初の原因となった過剰流動性を招いて悪循環に陥るのではないかという指摘もありますが、今回の会議でこれに対する何らかの答えは示されたのでしょうか。

【答】 冒頭にも申し上げましたが、ここ数年に亘って世界経済や金融環境があまりにも恵まれた状況にあったということだと思います。中央銀行がじゃぶじゃぶにお金を供給したという意味での流動性過剰ではなく、金融市場の中でリスク評価が甘い形で資金が流れ易い環境が続き、非常に流動性の高い経済であったということだと思います。今、少し苦痛を伴いながら修正過程が進んでおり、いわば資産の本質的な価値が市場に照らして正当な価格評価がなされる過程にあります。これは本来の姿です。そういう姿にひとたび戻して、実体経済とのインタラクション(相互作用)がうまく働き、リスクがたまり過ぎない市場と経済の一体的運営と

いう姿に、早く辿り着くという努力が今なされていると思います。そういう意味では、誰か特定の人が過去を振り返って、問題を修正すれば片付くということではなく、広く市場経済の中のプレーヤー全てと政策当局の両方が、この問題認識を正確に持って新しい経済運営に前向きに取り込んでいくという姿勢が確認されたと思います。

しかし、今後どうなるかと言いますと、市場経済ですから、常に実体経済が市場いずれかに新しい問題が次々と起こってくることは不可避です。予見可能性を人々が早く抱くようになり、問題が起こった後のショックの吸収能力とキャパシティー(吸収余力)も大きくなるという形で、常に前向きに何か新しいものを作り上げていくという良いリズムをうまく見出していけるかどうか課題となっていると思います。

過去を振り返って後ろ向きに問題処理の方法だけで能力を磨いても、グローバル化の中で、ダイナミクスが強く働く世界の中で、それでは物足りません。前向きな姿勢で問題意識を共有し、共同で問題解決にあたっていくという姿勢をもっと強めていくという方向で議論は進んだと思います。

【問】 総裁は、金融市場の混乱という不透明要因を抱えながらも、日本経済が持続的な成長軌道に乗るように努力していくことを確認した、という総括をされました。今後、財政金融両面の政策運営にあたっては、不透明要因がある中でも持続的成長を続けていくという点をより重視した形で政策運営を行っていかねばいけない、という認識だと理解してよろしいのでしょうか。

【答】 今われわれが経験している市場の調整あるいは混乱を含んだ現象は、振り返ってみると、ある意味起こることが避けられない性質のものです。これを将来の良い姿に繋げていく方向で今努力が始まっており、ある程度進んでいます。さらに、今後市場の中で何も問題が起こらないような経済になるのは幻想だということを明確に申し上げたいと思います。

今後も色々な新しい形で問題が起ってきますが、その都度、その前に比べれば人々の予見可能性が高まっており、問題吸収能力が高まっているという形で問題をこなしていかなければなりません。市場参加者の市場行動も政策当局者の政策運営の在り方も、常に前向きに新しい付加価値を身につける形で前進していくということでなければ、グローバル経済の中のプレーヤーたち、あるいは政策運営当局者たちが、ともに満足できない結果に終わって

まいります。より良き満足を得るためには、問題を先取りし、過去に起こった問題を処理する場合にも、常に前向きに、次に役立つ教訓は何かということを意識しながら行動していくことが大事であると思います。

日本経済の運営につきましても、私の場合は金融政策の運営ですが、単に先を読むということではなく、常に過去を振り返り、その中から将来の政策運営に役に立つ要素を引き出し、かつそれに付加価値を加えて政策行動に結び付けていくということがフォワードルッキングな政策運営の本質です。各国においても次第にそういう考えが共有されるようになってきているということを、今回は少なくとも感じております。

【問】 今回の一連の会議で各国当局者と議論した結果として、日銀が描いている「物価安定の下での持続的な成長が今後も続いていく」という見通しは、色々な議論を通じ蓋然性が高まったのかどうか、あるいはやはり霧が深いなという意味でそういう確からしさは今ひとつ進んでいないのかについて伺います。

【答】 日本経済の姿を内在的に分析する限り、「物価安定の下での持続的な成長」というわれわれが思っている基本的シナリオに何か瑕疵があるということは確認されませんでした。われわれはむしろ確信を深めたということでありましたが、世界の経済と緊密な連関を持っている日本経済ですから、今グローバルな枠組みの中で起こっている市場の変動が世界の实体经济に及ぼしていく影響については、まだ大きく不確定要因を残しているということです。従って、霧が晴れたかどうかという質問にはなかなか答え難いのですが、引き続き先が読み難い状況が暫く続くということは間違いありません。それは日本だけではなく、主要先進国、エマージング諸国のいずれにも共通して、不確定要因を抱えながらも先を読む洞察力を磨きながら、正確な政策運営を行っていかねばならない局面だということです。

改めて申し上げますが、われわれは一点の霧もない澄み切った世界に改めて戻るという幻想は持っていません。常に先が読み難い状況の中で本当に正しい政策を行っていくことが本来の姿であり、今後ますますそういう姿になっていくという覚悟を各国政策当局者はしっかり持っているということが、今回確認されました。

以 上